

諏訪地方の 経済概況 速報

2017.03

2017年2月末調査／2017年3月28日発行

SUWA AREA
ECONOMIC
OVERVIEW



諏訪信用金庫
SUWA SHINKIN BANK

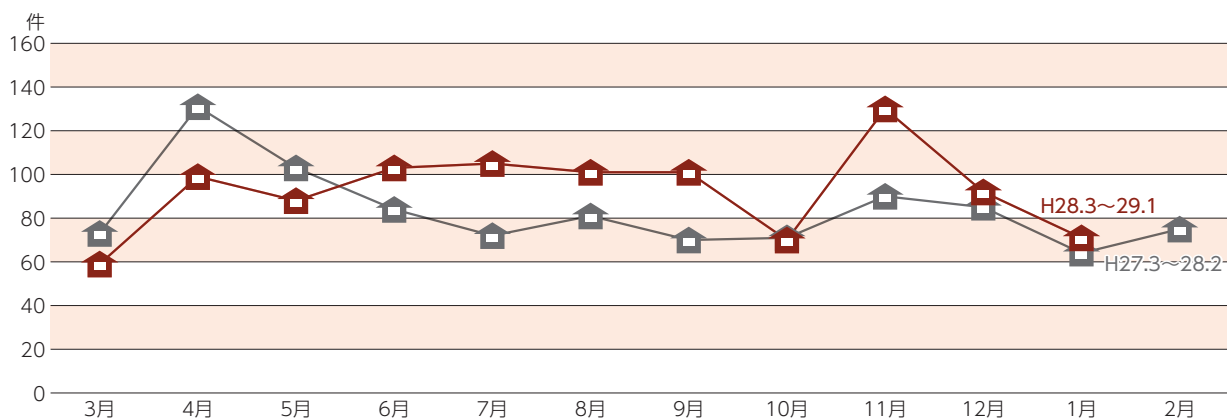
諏訪地方の概況

2月は、日米首脳会談で懸念されていたトランプ大統領の円安批判が出なかったことで、市場がひとまず落ち着いた。日本経済は円安を追い風に、堅調な北米景気や中国事業の持ち直しなどで、製造業の主要指標に明るさが見られた。一方、個人消費は公的負担の増加などで消費の回復は勢いを欠いた。総体的には、平成28年10～12月のGDP改定値が年率1.2%増で4四半期連続のプラスとなり、国内景気は緩やかな回復傾向と見られる。ただ、世界経済には不確実性があり、先行きのリスクも懸念されている。諏訪地方では、製造業は総体的に改善傾向が続き、好調な取引先からの受注増加や人手不足に伴い、設備導入を検討する企業が増加している。非製造業は、商業で初めてプレミアムフライデーが行われたが、企業側に従業員の早帰り促進の意欲が乏しいことなどで効果は少なかった。諏訪地方の有効求人倍率は1.60倍に達し、人手不足感が強まっている。

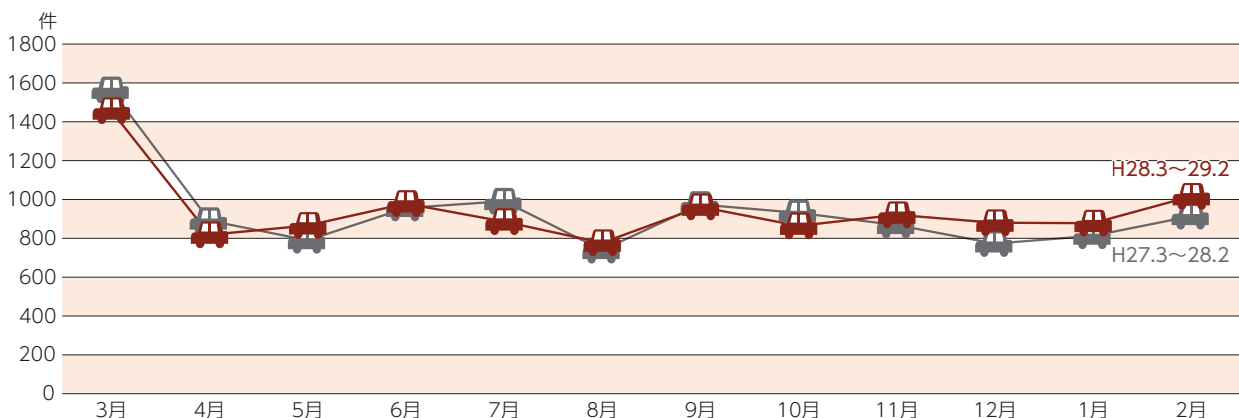
(諏訪信用金庫の取引先約130社へのヒアリング調査による取りまとめ)

		実数	前年同期比	
有効求人倍率【1月】(諏訪公共職業安定所管内)		1.60倍	0.33ポイント	
手形交換高【2月】(諏訪手形交換所扱)	枚数	4,895枚	△1,514枚	
	金額	5,747百万円	△2,474百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	0枚	△3枚
		金額	0千円	△450千円
車庫証明取扱件数【2月】(諏訪地方合計)		1,016件	11.2%	
新設住宅着工戸数【H28年4月～29年1月】(諏訪管内)		960戸	12.8%	

■新設住宅着工件数の推移(諏訪地方合計)



■車庫証明件数の推移



2月は、中国で高性能スマートフォンの製造が増加するなど、海外需要を受けて国内の半導体製造装置関連が盛況となった。諏訪地方でも製造業は、半導体製造装置関連で受注が増加した企業が多く、全体をけん引して総体的な改善傾向が続いている。その中で、今後の受注増加見込みや納期遅れの解消、人手不足への対応で、機械設備の導入を検討する企業が増えている。輸送用機械の自動車部品関連は、大手メーカーの状況や車種によって差があり、日本に大きな影響を与える米国との関係の不透明感を懸念する声が根強い。金属製品加工は、自動車関連は企業によって明暗があるが、半導体や省力化機械関連は旺盛で、受注をさばききれない企業もある。一般機械は、検査装置や省力化機械関連、半導体製造装置関連の受注が活発化している。精密機械は、レンズ関連の受注が多くなり、光学関連は持ち直しの動きとみる企業がある。

金属製品 プレス、メッキ、熱処理など	プレス業界は、総体的に回復基調の動きとなっている。半導体関連が活発で、直近は受注が生産能力を超えた状態の企業がある。ただ、短納期が多く、長期的な予測が困難になっている。自動車関連は、低迷が続く企業と、モデルチェンジの車種を中心に受注が増加している企業に分かれる。春以降の増産が決まっている企業もあり、先行きに明るさの兆しも見られる。
一般機械 工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など	省力化機械、検査用機械は受注も引き合いも多く、増加基調の流れが続いている。中国のスマートフォン製造ラインのロボット関連、半導体製造に伴う実装装置やロボット関連などで受注が増加した企業がある。高い精度が求められる製品では、単価を高めにしても受注が増加した企業もある。工作機械は北米向けなどに動きがあるものの、アジア向けが低調で、総体的には低調な推移となっている。
電気機械 家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、半導体関連など	取引先によって毎月、売上の増減があり、先行きの受注動向は不透明な面があるが、半導体関連、コネクタなど光通信関連部品、LED電灯基板、電源切り替え装置、リレーコンダクターなどは好調に推移している。リニア新幹線向け大型半導体製造にかかわる企業もある。年初から光学系の新規見積もりや試作注文が活発化している企業もある。
輸送用機械 自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など	自動車部品関連は、前年より明るい兆しが見えるとする企業の一方で、低迷状態が続いて回復の見込みがないとする企業があり、大手メーカーの動きや取引先の状況によって、業況が分かれる。その中で、大手各社の部品共用の動きが新規部品の受注鈍化につながる懸念、コストダウン要請や特殊鋼材の値上げが利益を圧迫する懸念を持つ企業がある。今後の米国の変化に対する様子見の状況は依然続いている。船外機は大きな変動はなく推移している。中国向けの産業機械は前年より増加傾向で、海外向け重機や減速機が増加傾向となっている。農機、建機も春先に向けて活発化している。
精密機械 時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など	レンズはカメラの高級機種や映画撮影用などの特殊レンズに動きがある。バーコード読み取りレンズも多い。監視カメラのレンズはプラスチックのプレス品が主流となりつつあり、業界全体の受注量は増加している。光ファイバー通信ケーブル関連の受注も好調に推移する見込み。圧力計関連、感震器関連の受注は大手企業向けが増加している。
製造業全般	寒天は健康を前面に打ち出した宣伝効果で、首都圏のスーパーなどで寒天食品が動いている。味噌は売上減少期で例年並みで、気象状況によって販売量が大きく変わる。無添加、減塩味噌は堅調な推移を続けている。具材等を輸入する企業は円安の影響もある。ニット業界は低調に推移している中で、春夏ものが一定のアパレルメーカーに流れ、地域企業は苦戦が続いている。

商業

「就活用スーツの動き鈍く、プレミアムフライデーは空振り」

2月は、初めて行われたプレミアムフライデーに対応する準備を進めた飲食店などがあつたが、効果は薄かつた。企業側に意識が乏しく、消費者もその気になっていないと見られている。半面、地元企業同士のコラボ商品や限定メニューの提供で売上を伸ばした店舗がある。就活用スーツ類は3月解禁の企業説明会を前に、売り手市場の学生には余裕が見られ、動きは鈍い。説明会を受けて本腰を入れる4月以降に需要が高まる見込み。自動車販売では、諏訪地方の2月の車庫証明件数が1,016件で、前年同月比102件、11.2%増加した。4ヶ月連続で前年を上回っている。

衣料	紳士、婦人服とも卒業式に出席する親用や転職、異動などに伴うスーツ類に動きがあつた。インバウンド向け日本製品を陳列する店舗もある。
食料品	野菜の価格は例年並みで安定していたが、肉や鮮魚関係は高値で、特に鮮魚は近海物などで品薄となる種類もあつた。小麦などの粉関係や砂糖の価格もやや上昇した。
家電製品	スマホの普及で写真を撮る機会が増え、より本格的な写真を撮りたい消費者に、デジタル一眼カメラの高機能品の需要が出ている。
自動車	県内の2月の新車新規登録台数は、登録車が4ヶ月連続で増加し、軽自動車は26ヶ月連続で減少した。全体では前年同月比194台増加(2.0%)の9,708台で、2ヶ月ぶりに増加した。
ホームセンター	上旬の降雪で、スコップタイプよりプッシュタイプの雪かきの売上が伸びた店舗がある。

観光・サービス業

「団体客の減少が多方面に影響」

2月は上旬に積雪があつたが、月平均気温は例年並みとなつた。スキー場は1~2月の積雪で雪の量は潤沢でゲレンデコンディションも良好だつた。週末の天候も良かったことから、スノーシュー(山歩き)を含めた入り込みがあつた。3月いっぱいまで滑走可能な雪量を確保している施設もある。ただ、暖冬だつた前年同月より増加したものの、今年は祝日が週末と重なり連休とならなかつたことやバスツアーの団体客の減少傾向が強く、影響を受けた施設も多い。また、温泉街でも団体客の減少傾向が影響をおよぼしている。

上諏訪温泉	2月の宿泊人数は、総体的に前年同月より減少した。前年同月比20%台の減少から3%台の増加まで業況は施設によってまちまちだつた。構成人員別では依然2~4人の個人客が堅調に推移している。方面別では県内、関東、東京、東海方面が多い。インバウンドは前年同期比減少し、団体から個人旅行へ変わる傾向が見られる。
蓼科・白樺湖・車山等	温泉とセットのスキー券を発売したり、他県の中学校のスキー教室などを取り込んだ施設は売上が増加したが、総体的に団体客の減少が影響している。小規模施設は大手の低料金プランの影響もある。大学の冬の合宿が減少した分を個人客が補った施設もある。
下諏訪温泉	インターネット予約が好調で、個人や家族単位の旅行が増加している。宴会需要もあつた。
諏訪大社	上社・下社合わせた2月の参拝者数は約3万5千人。前年同月比では約4千人の減少(△9.8%)となつた。

建設業

「新設住宅累計着工戸数が前年同期増」

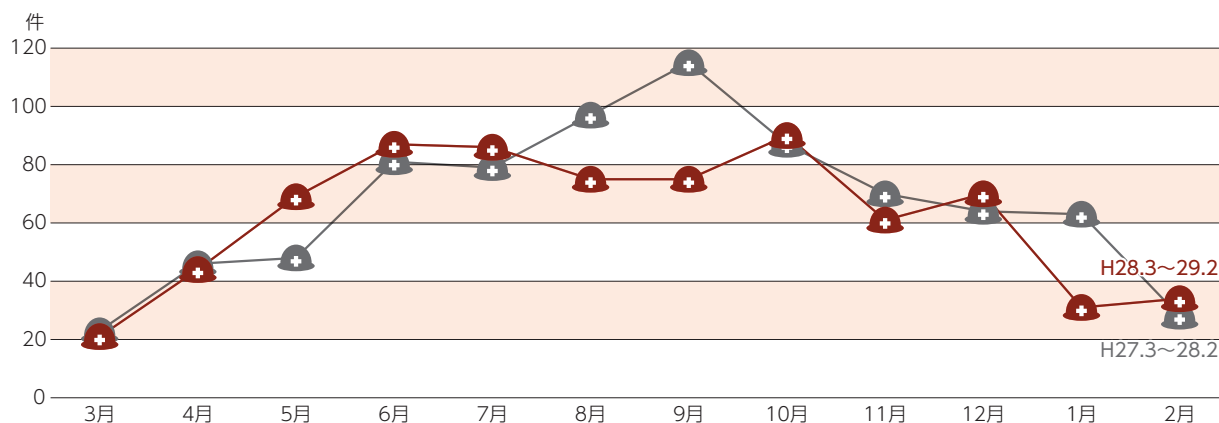
2月の市町村からの受注工事は合計34件、121百万円となった。前年同月に比べ、件数は6件増加し、契約金額は93万円増加した。国県関係は平成28年4月～平成29年2月の累計公共工事（地元業者受注分）が前年同期累計比で件数、契約金額とも増加している。補正予算が終了し、次年度の年度当初は例年通り低調な動きとなる見込み。手持ち工事終了後の動向を不安視する企業もある。民間工事は、諏訪地方の1月の新設住宅着工戸数が71戸で、前年同月比7戸増加（10.9%）した。平成28年4月～平成29年1月の累計は960戸で、前年同期比109戸増加（12.8%）した。諏訪地方では「貸家」の伸びが大きい。

公共工事	2月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は、諏訪建設事務所23件、農地整備課1件、国関係1件の合計25件で、契約金額は663百万円だった。平成28年4月～平成29年2月の累計は166件、4,744百万円で、前年同期の累計比で件数は37件、契約金額は1,202百万円増加（33.9%）した。市町村からの2月の受注工事は、建築工事2件3百万円、土木工事および下水道工事24件107百万円、その他工事8件10百万円となった。
民間工事	諏訪地方の1月の新設住宅着工戸数は、前年同月比の利用関係別で「持家」は4戸減少の38戸、「貸家」は14戸増加の31戸、「分譲」は3戸減少の2戸、「給与」は変わらず0戸だった。長野県内の1月の新設住宅着工戸数は763戸で、前年同月比14.7%増加した。前年同月比の利用関係別では、「持家」と「分譲」が3ヶ月連続の増加、「貸家」は7ヶ月ぶりの減少となった。

■諏訪地方の1月の新設住宅着工状況

区分 市郡名	合計 戸数	前 年	利用関係別								構造別			
			持家	前年	貸家	前年	給与	前年	分譲	前年	木造	前年	非木造	前年
岡谷市	44	27	12	10	31	16	0	0	1	1	42	24	2	3
諏訪市	7	17	6	13	0	1	0	0	1	3	7	15	0	2
茅野市	11	13	11	12	0	0	0	0	0	1	10	12	1	1
諏訪郡	9	7	9	7	0	0	0	0	0	0	9	6	0	1
合計	71	64	38	42	31	17	0	0	2	5	68	57	3	7

■公共工事の推移（市町村合計件数 調査・測量・設計など業務委託は除く）



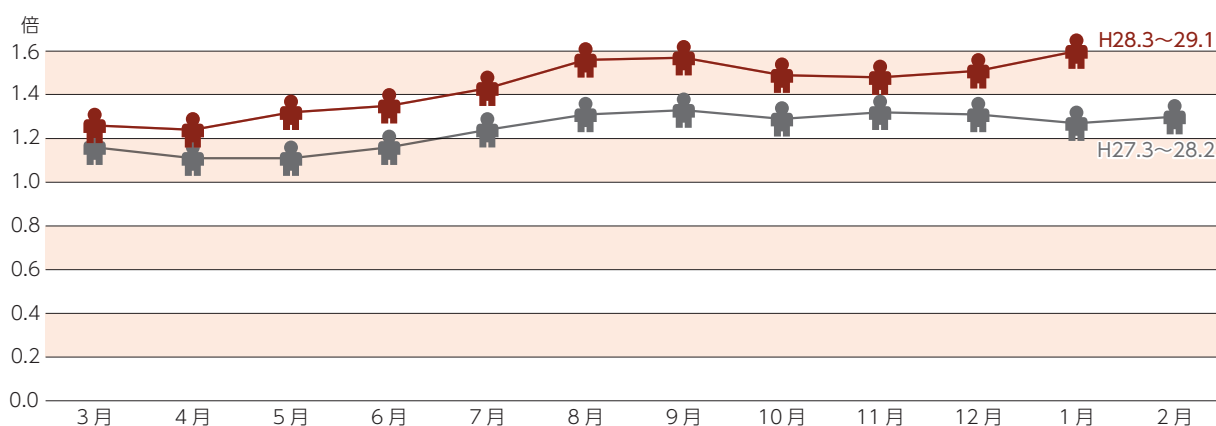
雇用

「有効求人倍率平成20年4月以降初の1.60倍」

諏訪地方の1月の有効求人倍率は、前年同月を0.33ポイント上回る1.60倍となった。前月は0.09ポイント上回った。諏訪職安が旧岡谷職安管内を統計に加えた平成20年4月以降の最高水準を更新し初の1.6倍台となった。1倍台の維持は34ヶ月連続で、前年同月を上回るのは44ヶ月連続となっている。長野県平均は1.49倍で前月を0.08ポイント下回ったものの、9ヶ月連続の1.4倍台以上が続いている。県内4ブロック全てで39ヶ月連続前年同月を上回り、31ヶ月連続で全国平均を上回っている。全国平均も1.43倍で高水準が続いている。

諏訪地方の新規求人数(全数)は1,764人で、前年同月比110人増加(6.7%)した。要因別では、「欠員補充」「創業・新分野展開」が増加し、「継続する人員不足」「業務量増大」は減少した。業種別の前年同月比の新規求人数は「その他のサービス業」「製造業」が増加し、「生活関連サービス・娯楽業」が減少した。新規求職者数は826人で、前年同月比43人減少(△4.9%)した。1件10人以上の人員整理はなく、事業主都合による雇用保険資格喪失者は22人で前年同月比35人減少、前月比では11人増加した。

■有効求人倍率の推移



《企業のひとこと》

- 設備、人材とも不足し、全体的に生産能力が落ち、受注が微増ただけで右往左往してしまう(金属製品製造業)。
- 社内の許容量がいっぱいの状態が続き、一部工程を海外企業に依頼したが、外注先を探すのが大変になってきている(一般機械製造業)。
- 今後の技術力競争で業界の構図は大きく変わることが予想される(電気機械製造業)。
- 低金利のため、積極的に融資を受けて設備投資しても良いが、世界情勢が「一瞬先は闇」といえるため、どうしても踏み込めない(輸送用機械製造業)。
- トランプ大統領の動向が業界へ与える影響は大きく、今後の気がかり(輸送用機械製造業)。
- まったく同じ仕事の見積もりが別会社から何回も流れてくることがある。受注単価が高くても依頼されるケースが多くなっている(精密機械製造業)。
- バレンタインデーは近年、異性へのプレゼントより自分への褒美の傾向があり、少量の高額高級商品が売れる(小売店)。
- 安倍首相やトランプ大統領の影響か、色は違っても無地のネクタイに動きがある(衣料品店)。
- 冬場に行った地元醸造所とのコラボ商品がヒットした(飲食店)。
- 大手ゼネコンによる五輪関連工事や老朽化マンションの解体、造成など工事が多い東京からの受注が見込まれるため、東京の対応をしたい(建設業)。
- 県内他スキー場の遭難事故の影響はないが、風評は好ましくない(観光業)。

長野県の金融経済動向

(2017年3月6日) 日本銀行 松本支店

— 2017年の公表日の前営業日時点で利用可能であった情報をもとに取りまとめ。

長野県経済は、緩やかな回復基調にある。

最終需要の動向をみると、公共投資は緩やかに減少している一方、住宅投資は持ち直している。この間、設備投資は緩やかに増加しているものの、企業の投資姿勢は幾分慎重化している。また、個人消費は一部に弱めの動きもみられるが、底堅く推移している。

以上のような最終需要を背景に、生産は新興国経済の減速の影響が和らぐもとで、持ち直している。雇用・所得は、着実な改善が続いている。

生産

半導体関連・電子部品等では、スマートフォン向けが幾分持ち直しているほか、生産用機械向けで中国など新興国経済減速の影響が和らいでいることから、生産は持ち直している。

自動車関連では、海外需要が総じて堅調なほか、国内需要が新型車等を中心に底堅いことから、生産は持ち直しつつある。

機械・同関連部品等では、工作機械は、北米での設備投資には足踏み感がみられているが、中国など新興国経済減速の影響が和らいでおり、生産は持ち直しつつある。計器は建設機械向けなどで生産は持ち直している。バルブは、生産は高めの水準で推移しているものの、新興国経済減速の影響などが引き続きみられる。成形機は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復しているが、中国などのIT向けを中心に弱さがみられる。

飲料では、生産は横ばい圏内で推移している。

個人消費

県内大型小売店(百貨店、スーパー)売上高(当店調べ<店舗調整前>)をみると、1月は一部に弱さがみられるものの、底堅く推移している。

家電販売は、1月は前年を下回った。

自動車販売は、2月は前年を上回った。

公共・住宅投資

公共工事請負金額をみると、1月は独立行政法人等の発注分が減少したものの、国、県、市町村の発注分が増加したことから、全体では前年を上回った。

住宅着工戸数をみると、1月は貸家が減少したものの、持家、分譲が増加したことから、全体では前年を上回った。

雇用・所得

有効求人倍率をみると、1月は新規求職者数が増加したことから低下した。所得面では、12月は一人当り名目賃金および常用雇用者数が前年を上回ったことから、雇用者所得は前年を上回った。

物価

消費者物価指数(除く生鮮食品)をみると、1月は前年を上回った。



SUWA SHINKIN BANK

諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

TEL 0266-23-4567 FAX 0266-23-8044

<http://www.suwashinkin.co.jp/>